

二〇二二年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

国語【昼間コース 一般選抜：前期日程】

問題一

出題意図

日本人はカミ(神)をどのようにとらえてきたかをめぐる論考の書より、日本における古代から近世へと続く歴史の中で神とコスモロジー(宇宙観・世界観)の変遷を考察する文章からの出題となる。本文では、縄文時代から現代までの非常に長い時間を扱っている。人知を超える存在を感じてから、それがカミへと進化する過程が紹介され、さらにその探求は中世という時代と人々の社会状況から死や魂、来世などを背景に持つコスモロジーへと変化していくことになる。出題の意図は、本文内で目まぐるしく移動する時代や時間についての的確に把握し、引き継がれるものと変化するものなどの正確な読みを問うところにある。

評価ポイント

問一 一般的な評論文等で用いられる範囲の難易度の漢字について、書き取り・読み取りが正確にできていること。

問二 文脈や語意を正確に把握し、的確な語句を見つけ出せること。

問三 文脈を正確に把握し、適切な語句を選び出せること。

問四 該当部分が示す箇所を正確に把握し、設問文の指示に従って書けていること。

問五 文中で述べられる複数の要素を的確に要約し、説明できること。

問六 問題文の内容全体を理解し、その正誤を正確に判断できること。

問題二

出題意図

古文に頻出する古語や定型的表現を理解しているか、高等学校で学習する古典文法や古典についての知識を一定以上習得しているかを問う。また、これらを用いて、古文の文章、意味・内容（文脈・状況設定や登場人物の考え・心情など）を正確に把握できているかどうかをみる。さらに、日本古典文学史について基礎的な知識を持っているかを確認する。

評価ポイント

問一 古文でよく見られる古語を正しく読み、書くことができていること。

問二 古文に見られる簡単な仏教思想、当時の習慣をある程度知っていること。選択肢から適切な語句を選び、正しく書くことができていること。

問三・四 古文の語彙・文法をある程度知っていて、文脈を追って作者の心情を理解していること。選択肢から適切な語句・表現を選び、正しく書くことができていること。

問五 古文に見られる簡単な仏教思想を知っているか、あるいは、文脈によって把握できていること。和歌の音数律（五七五七七）を踏まえて、適切な漢数字を正しく書くことができていること。

問六 古文の定型的表現を知っているか、文脈によって類推できていること。和歌の音数律（五七五七七）を踏まえて、適切な漢字を正しく抜き書していること。

問七 古文に見られる簡単な仏教思想を知っていて、古文の基礎的な語彙・文法をある程度知っていること。文脈を追って作者の心情を理解していること。該当箇所を本文から正しく抜き出していること。

問八 基礎的な古語や古典文法を知っていること。正しい現代日本語に訳すことができていること。

問九 古典文学史の知識をある程度持っていて、それを活用し後世の文学への受容のされ方を説明することができる。正しい現代日本語を書くことができていること。

問題三

出題意図

問題文は、社会学という立場から、社会現象や社会変化をどのように捉えるべきかを論じたものである。特に「構造化理論」を中心に、その特徴および意義について、事例を交えて解説した箇所を抜き出している。専門用語はあるものの、文章は平易な単語や表現で構成されており、高等学校卒業程度の読解力があれば十分に理解可能である。設問は主に、基本的な語彙力があるか、抽象的な理論や概念の解説文を正確に読解できるか、論旨を日本語で適切に表現できるかについてを問うもので構成されている。

評価ポイント

- 問一 一般的な評論などで用いられる範囲の難易度の漢字について、書き取り・読み取りが正確にできていること。
- 問二 問題文全体の文脈と各段落の文章を正しく把握し、各文をつなぐ語を適切に選択できていること。
- 問三 問題文全体の文脈を理解し、適切な語句を本文から抜き出せていること。
- 問四 問題文全体の文脈を理解し、適切な語句を本文から抜き出せていること。
- 問五 問題文全体の文脈を理解し、抜き出された文の元の位置を適切に判断できていること。
- 問六 問題文における「構造化理論」を理解し、該当部分の前後の文脈を正しく読み取れており、設問の指示に従って明確に書けていること。
- 問七 問題文の内容全体を理解し、述べられている複数の理由を的確かつ明確に要約できていること。

問題四

出題意図

明治・大正の優れた漢詩人高野竹隱が詠じた詩を出題した。石狩湾のほかに積丹半島や増毛山地などの雄大な大自然と、北海道に暮らす人々の営みや郷愁の情が詠われている。一部にやや難しい語彙が含まれるものの、注を参照し丁寧に読み進めれば、高等学校で学習した漢語・漢文の能力を用いて十分に理解できる内容である。問題では漢語や漢文の理解度、漢文法の習熟度を確認するとともに、内容に即して詩に詠われた情景や人々の心情を正しく理解できているかを問うた。

評価ポイント

- 問一 指示された漢字を文脈に合わせて正確に読めていること。
- 問二 本文の内容を踏まえ、漢文の句形を理解し、該当箇所我正しく返り点を付けられていること。
- 問三 詩の流れを理解し、正しい語を答えられていること。
- 問四 詩に詠われた情景と比喻を理解し、正しい語を答えられていること。
- 問五 詩の情景を正しく理解し、該当箇所を正しい日本語に訳せていること。
- 問六 詩の内容を理解した上で、漢文の語法にしたがい該当箇所を正しく読み下せていること。
- 問七 詩に込められた作者の心情を正しく読み解き、制限された字数内での確に解答できていること。